

令和3年度第4回ミニ自然観察会実施結果報告

日 時：令和3年10月2日（土） 午後2時から午後3時まで

テーマ：タデ科の植物とオニバスの閉鎖花

結 果： 初めに、大河ドラマに出てきた植物のアイを参加者に見てもらいました。アイはタデ科の植物でその特徴として葉の付け根に托葉が付いていること、アイは大陸から入ってきた植物で野生はないことなどを話しました。小さな花を付けているキクモでは、葉の形から名前が付いていること、稲刈り後の田で見られることを話し、次にシダ植物で奇妙な形をしているミズワラビを観察しました。

庭に出てアイと同じタデ科植物であるシロバナサクラタデ、イヌタデ、アキノウナギツカミ、ミズタデを観察し、どれにも托葉があることを確認しました。

ジュズダマを見た年配の参加者は、昔の遊びの材料であることを思い出していました。また、ハトムギ茶に使われるハトムギはジュズダマと同じものであることを話しました。

次に、オニバスの蕾を観察して、花が開花せず種をつくる閉鎖花について説明しました。また、花が開いているオギとススキの見分け方、最後に、鉢植えしてあるオニバスで、棘の鋭さ、葉と花の芽の出方の違いを観察して終了しました。

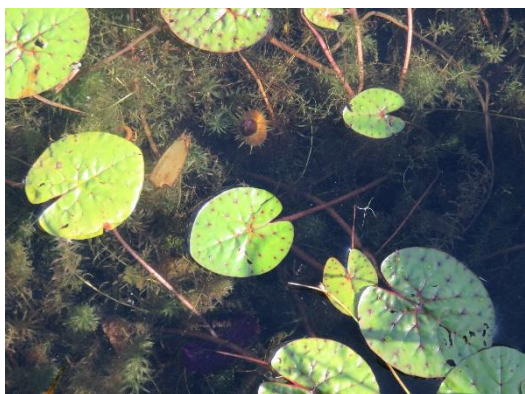
捕虫網も用意しましたが、残念ながら昆虫は見当たりませんでした。

今の霞ヶ浦周辺では、残念ながらオニバスが見られる場所は一か所となりました。また、どこでも見られたキクモやミズワラビも数が減っているようです。これらの植物を大切に保全して、これからも観察できるといいですね。

当日の様子を紹介します。



キクモ



オニバスの閉鎖花



アキノウナギツカミとシロバナサクラタデ